

石川島記念病院 放射線科 安田 和矢

功 績	新型コロナ専門病床開始以来、人員補充なく休日・夜間の検査体制を放射線技師2名で入院時検査をもれなく実施できている功績。
推 薦 者	佐野 良一
推 薦 理 由	臨床検査科については、休日・夜間の対応は看護部で行っていますが、放射線科はコロナ患者の肺炎の有無などを確認するためには入院時にCT検査が必須となり、当初より放射線科業務の逼迫が予想されていました。そこを安田科長はもともとの人員体制で対応すると申し出、診療に影響を出不さずに現在まで放射線科の運営をしています。使命感を持って、少ない人員で効率的に患者さんやその診療・治療に貢献している安田科長を理事長賞に推薦いたします。

内 容

9月27日より回復期病棟から全床コロナ専門病棟となりました。当初、放射線科2名体制で休日、夜間の入院時のCT、胸部X-Pの対応は難しいとし非常勤の放射線技師を雇用して人員体制を強化することで準備をしていました。

紹介派遣会社へ依頼し平日は毎日1名増員し、休日・夜間呼び出し対応時に平日に代休をとれる体制を検討、修正予算にも盛り込みました。9月に準備していると放射線科安田科長より「現在の2名体制でやらせてほしい」との申し出がありました。

理由をよく聞くと、日替わりで知らない技師が交代で勤務するより、現在の2人体制で実施したほうが効率もよく、人が変わるたびに指導したり説明に時間がとられるとの事でした。当初はどのくらい休日・夜間の対応があるか想像もつかず、当面2人体制で対応しあまりにも業務負荷が多くなった時に相談ということになりました。

9月27日以降12月まではコロナ患者も発生がほとんどなく十分対応できる程度でした。しかし、年末の12月31日よりオミクロン株の患者さんが入院して以来、1月第2週目からあつという間に患者さんが増え、1月21日からはほぼ満床稼働となっています。この間、休日・夜間は安田科長がすべて対応しております。また、1月よりコロナ患者受入れ病院の輪番も始まり、休日の対応もマストになっています。コロナ患者入院時のCT、胸部X-P検査もきちんと対応し、日常の検査体制にも影響を出不さずに放射線科を運営しています。